

全般季節予報支援資料

1か月予報

2024年4月11日

予報期間：4月13日～5月12日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

- ・ 北・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 東日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

全般1か月予報

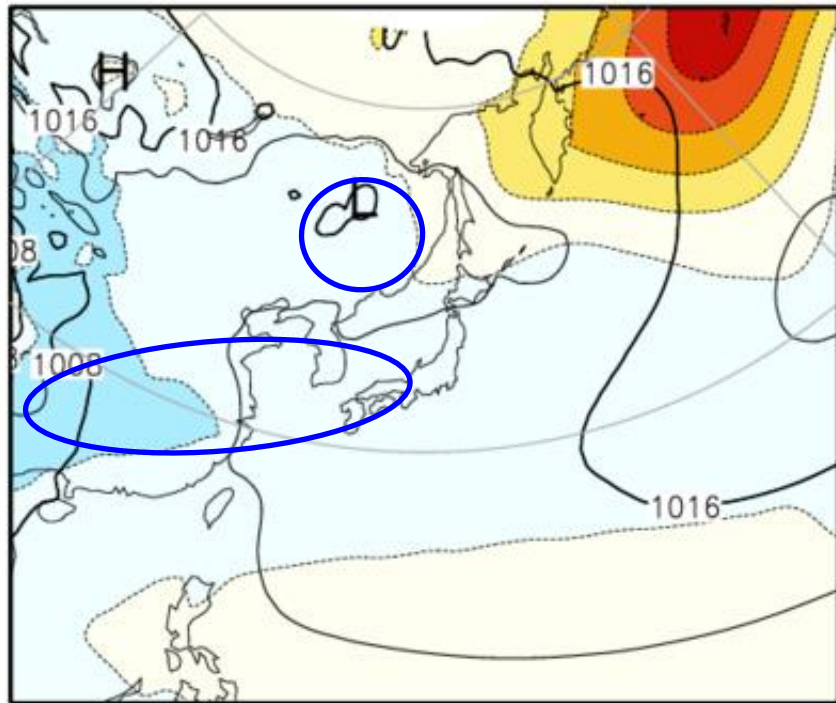
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:20:70	40:30:30	40:40:20	
	太平洋側		40:30:30	40:40:20	
東日本	日本海側	10:10:80	30:40:30	40:30:30	
	太平洋側		30:40:30	40:30:30	
西日本	日本海側	10:10:80	30:40:30	40:40:20	
	太平洋側		30:30:40	40:40:20	
沖縄・奄美		10:10:80	30:30:40	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	10:10:80	10:30:60	20:30:50
東日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
西日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
沖縄・奄美	10:10:80	10:20:70	10:30:60

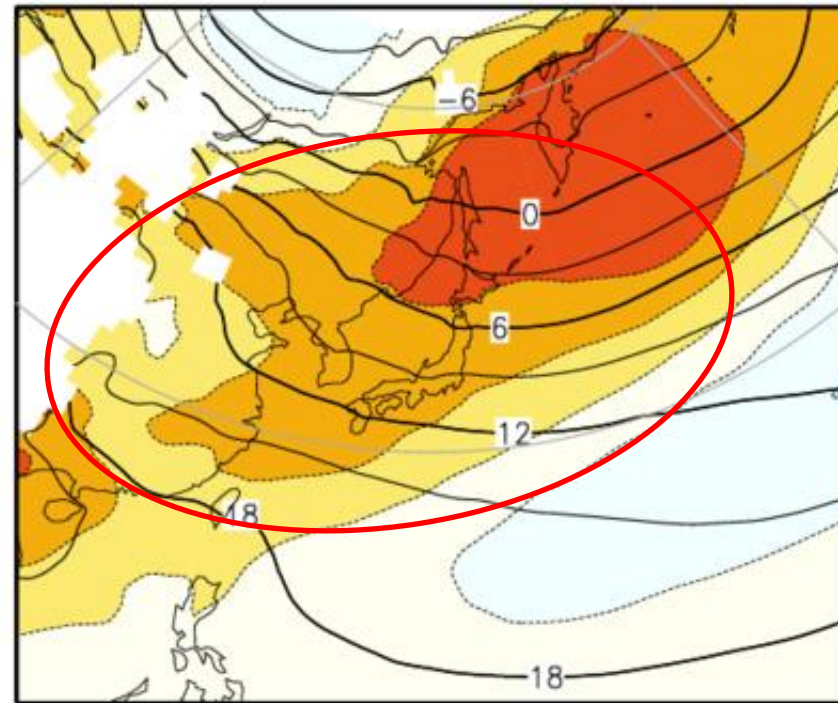
全般予報のポイント

- 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は全国的に高いでしょう。特に、期間の前半は全国的に気温がかなり高くなる見込みです。
- 気圧の谷や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、北日本では向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。
- 低気圧や前線などの影響を受けやすい時期があるため、西日本では向こう1か月の日照時間は平年並か少ないでしょう。

地上気圧(1か月)



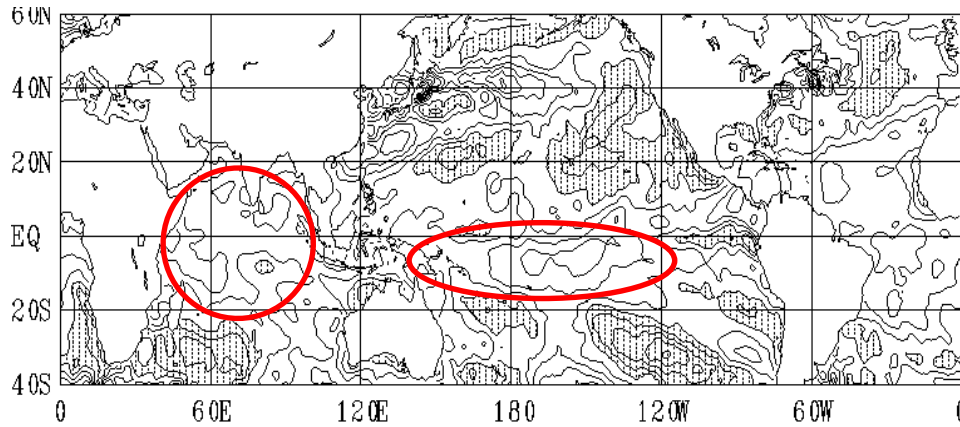
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の地上気圧(左図)は、日本付近では気圧の傾きが小さく、天気が周期的に変わりますが、華中から日本の東にかけて平年より低く、東・西日本を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。また、中国東北区には低気圧があり、北日本では気圧の谷の影響を受けやすい時期があるでしょう。

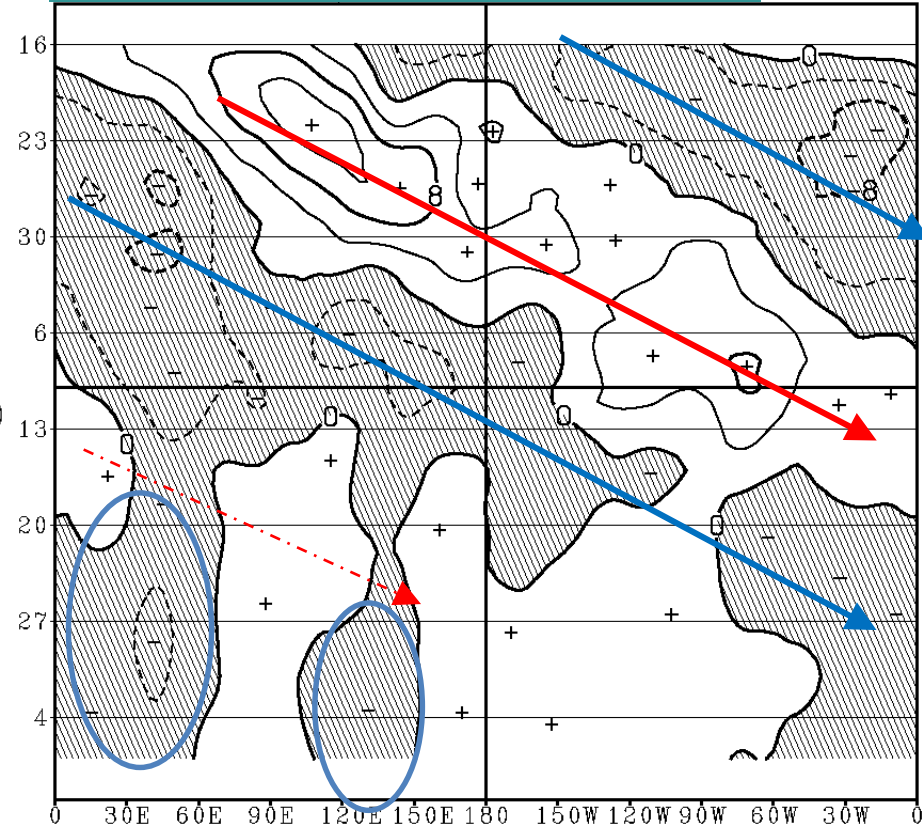
上空約1500mの気温(右図)は、日本付近では全国的に平年より高く、暖かい空気に覆われやすいでしょう。

SST偏差



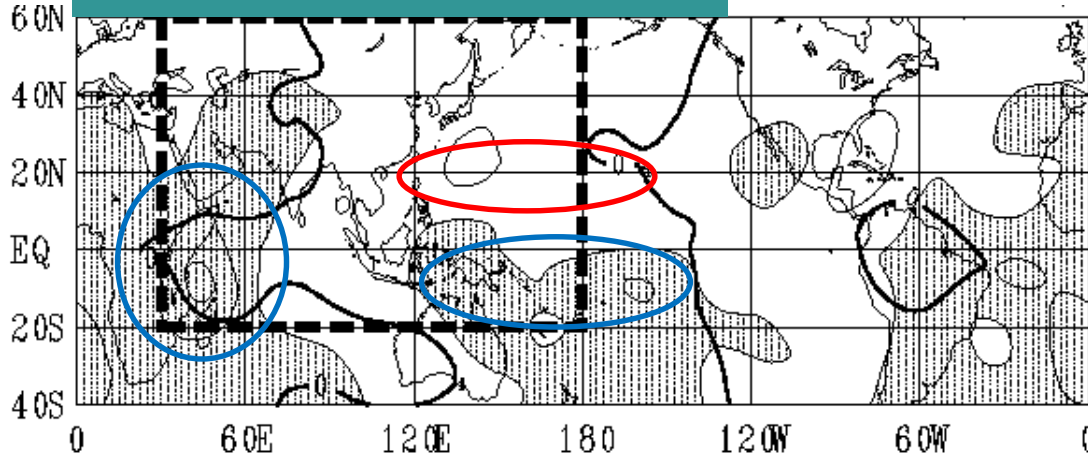
エルニーニョ現象に対応して、太平洋赤道域は中部を中心に正偏差。
インド洋熱帯域は西部を中心に正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



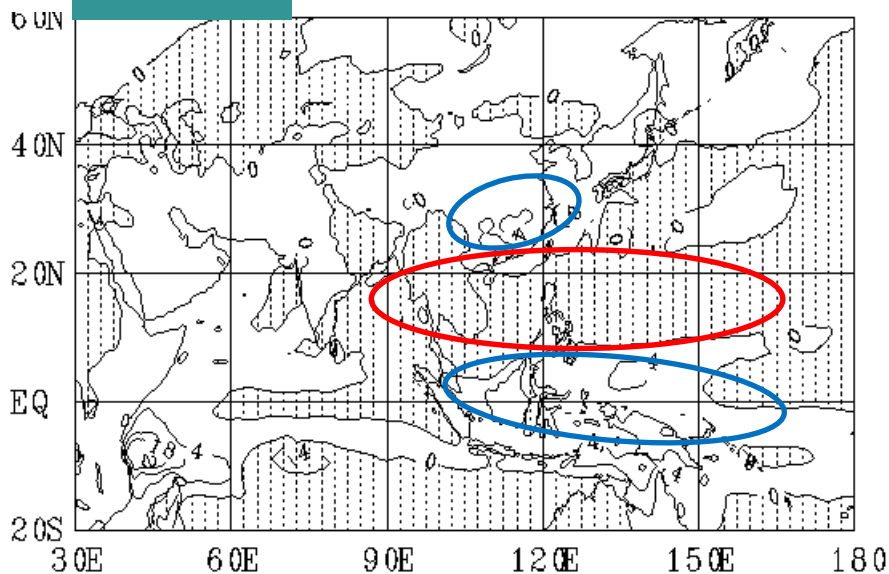
MJOの対流活発位相は期間はじめに中部太平洋に東進。その後、インド洋西部と西部太平洋で対流活発な状態が持続する予測で、SSTの影響を示唆。

200hPa速度ポテンシャル



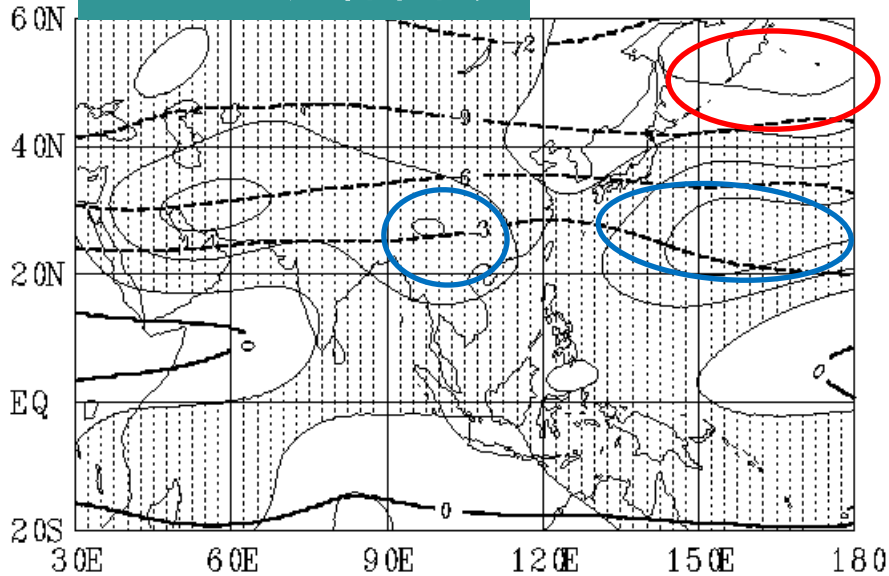
赤道域ではインド洋西部、インドネシア付近から中部太平洋にかけて上層発散偏差。一方、フィリピン東方海上は上層収束偏差で、太平洋域では発散偏差域が赤道から南半球側に偏っている。

降水量



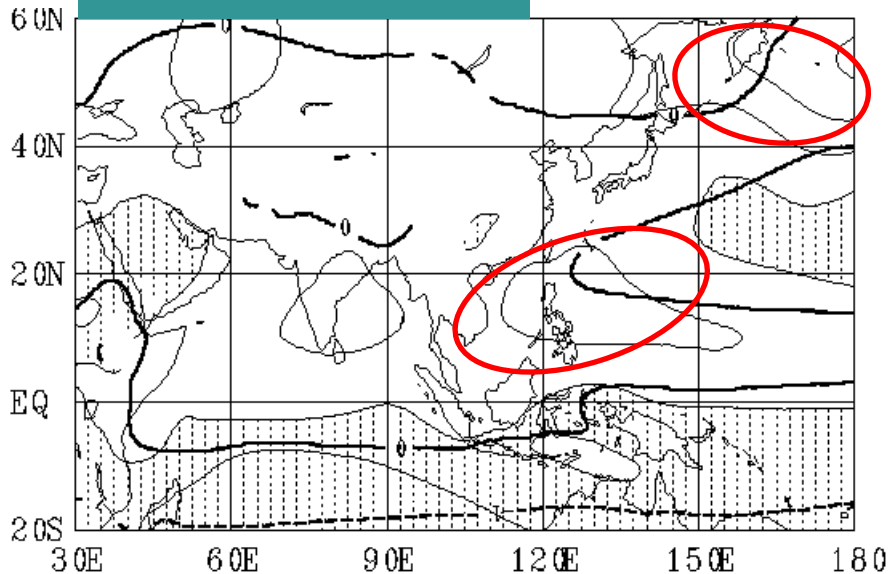
インドネシア付近で多雨偏差、ベンガル湾からフィリピンの東にかけて少雨偏差。華南・華中から東シナ海にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



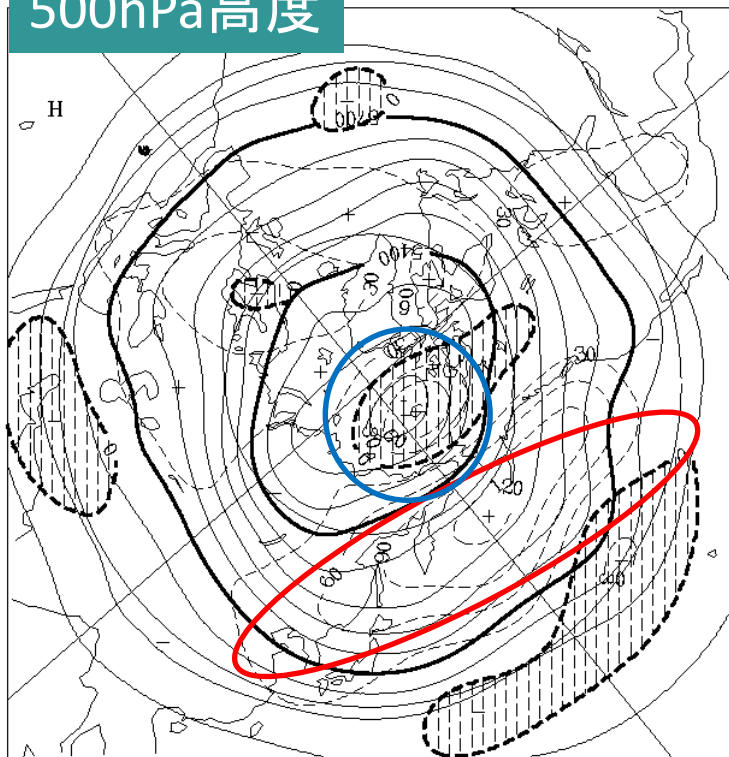
華南からインドシナ半島の北にかけてと日本の南東海上は低気圧性循環偏差。千島付近は高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



熱帯域の対流活動に対応して、南シナ海からフィリピンの東にかけて高気圧性循環偏差。また千島付近は高気圧性循環偏差。前者は鉛直に傾圧構造で熱帯対流活動の影響を示し、後者は等価順圧構造で中高緯度循環の特徴を示す。

500hPa高度



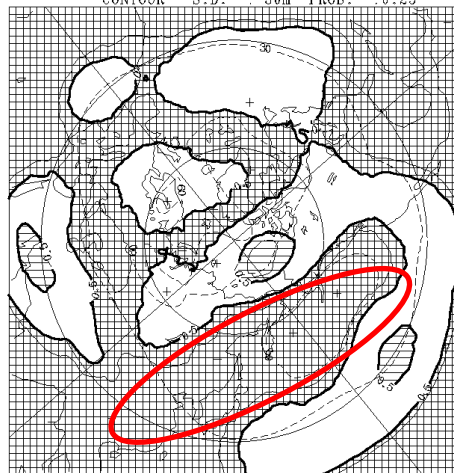
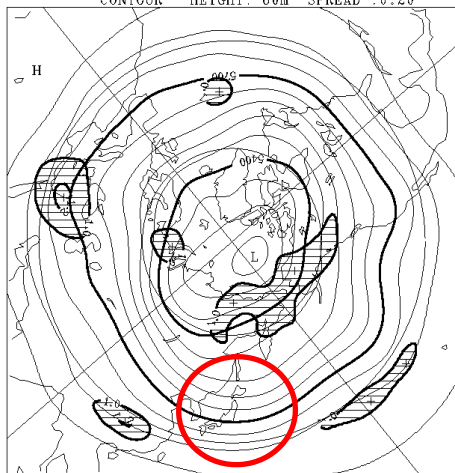
北半球域では、極域は負偏差、中緯度帯で帯状に正偏差という、寒気蓄積側の循環パターンが卓越。日本付近も東西に帯状の強い正偏差の領域(正の高偏差確率が高い領域)に覆われる。また、スプレッドも小さい。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

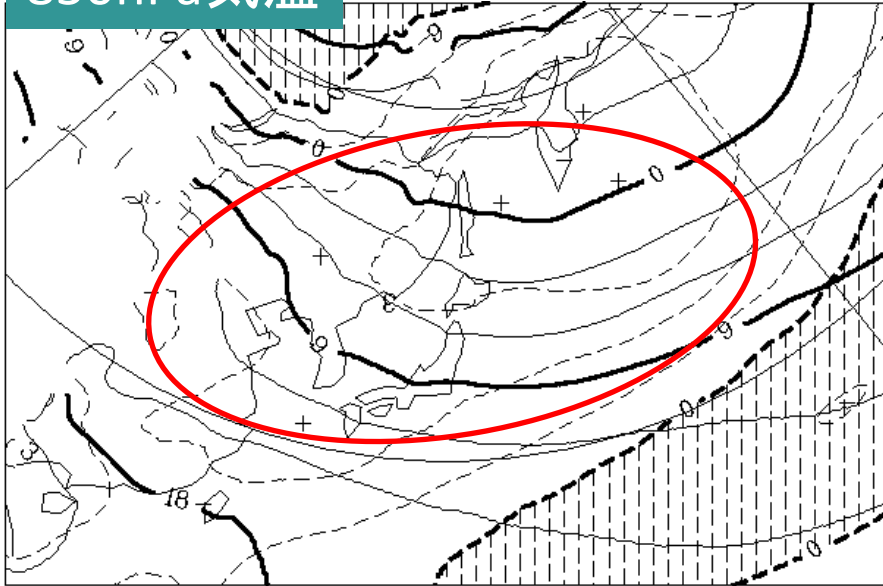
PROB. OF H.ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD : 0.20

CONTOUR S.D. : 30m PROB. : 0.25

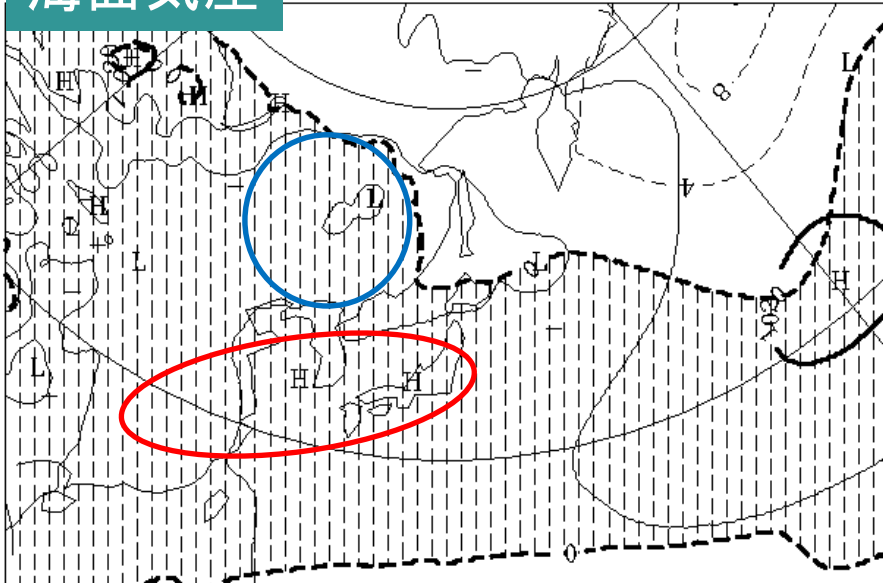


850hPa気温



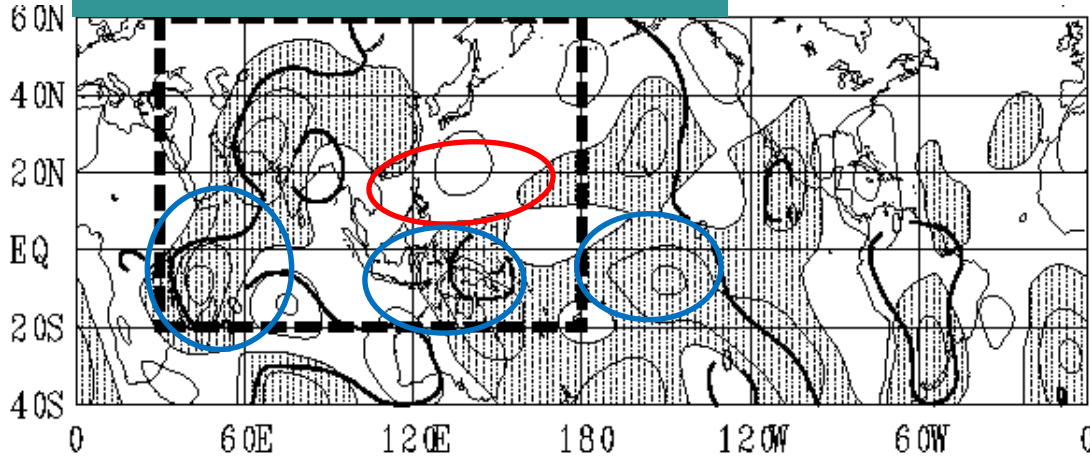
日本付近は東西に広く高温偏差。高温の中心は日本の北で、北・東日本では南北の温度の傾きが小さい。

海面気圧



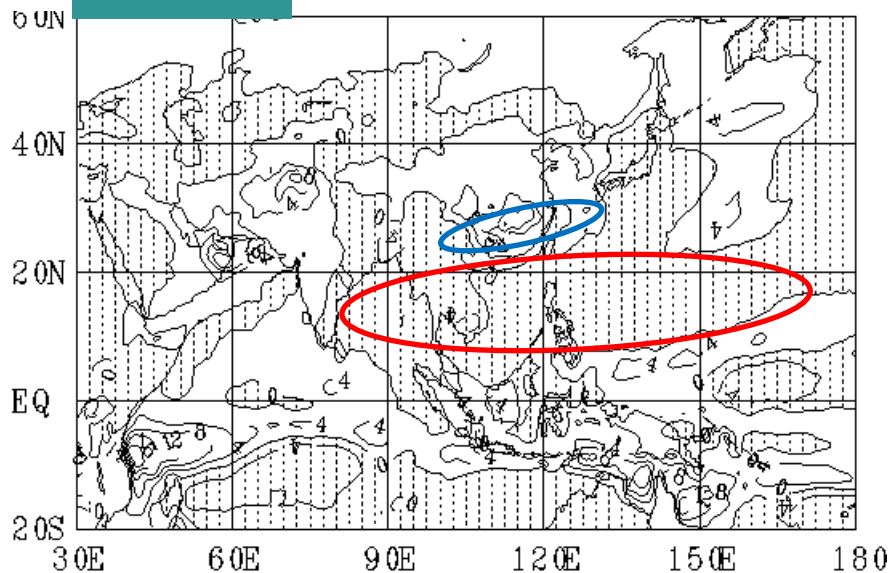
日本付近では気圧の傾きが小さく、天気が周期的に変わることを示唆。しかし、華中から日本の東にかけて気圧が平年より低く、東・西日本を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。また、中国東北区には低気圧があり、北日本では気圧の谷の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



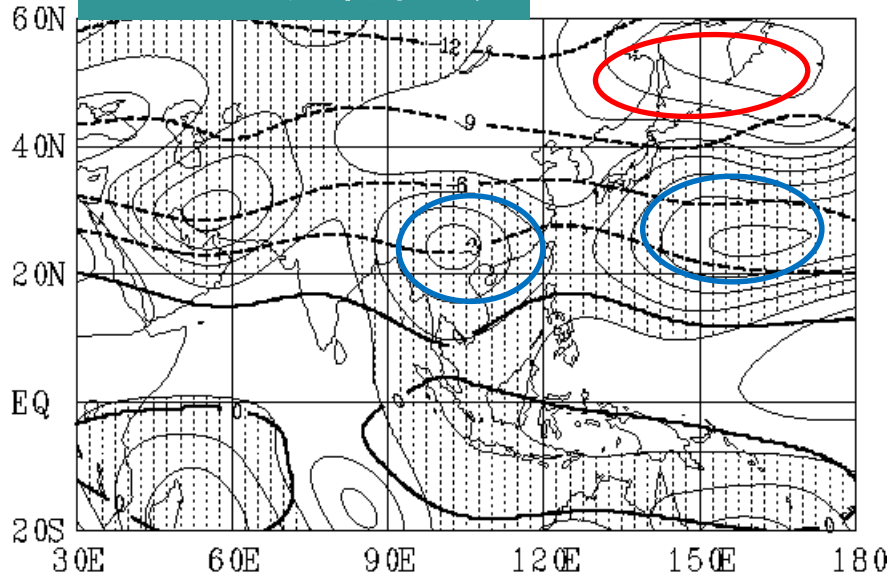
赤道域では、インド洋西部、インドネシア付近、中部太平洋と上層発散偏差域が点在。フィリピン東方海上は上層収束偏差。

降水量



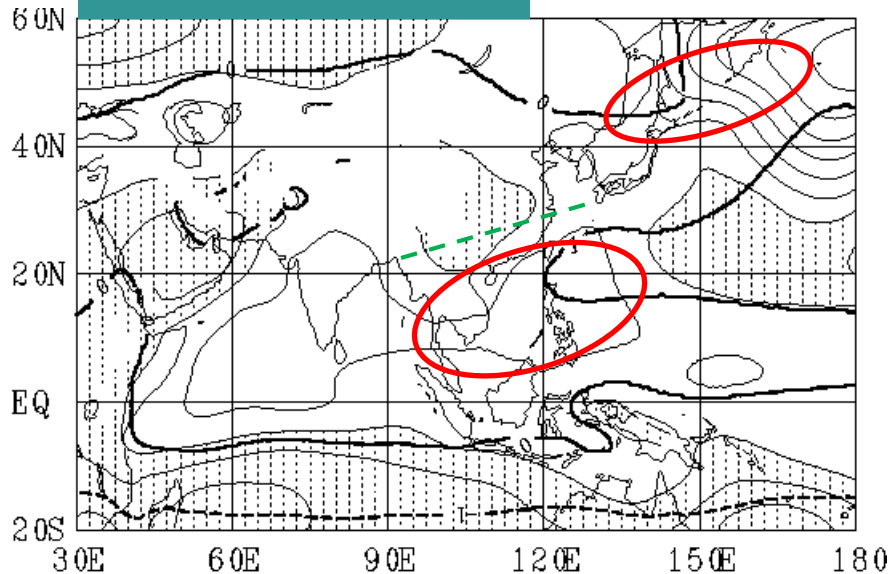
ベンガル湾からフィリピンの東にかけて少雨偏差、華南・華中から東シナ海にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



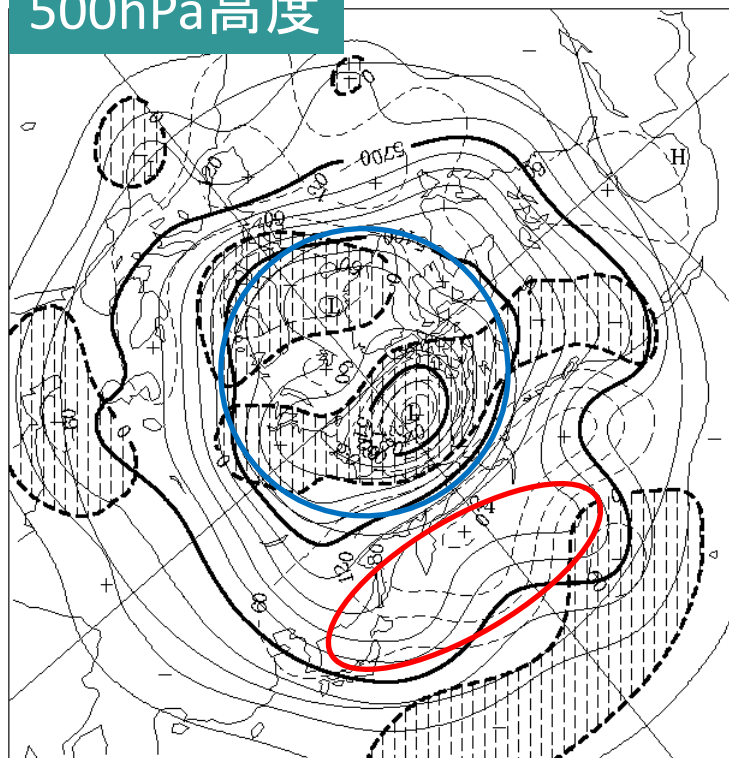
亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンが見られ、華南からインドシナ半島にかけてと日本の南東で低気圧性循環偏差。一方、千島付近で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



南シナ海からフィリピンの東にかけて高気圧性循環偏差、熱帯の対流活動の影響。また、日本海北部からカムチャツカ半島にかけて高気圧性循環偏差。

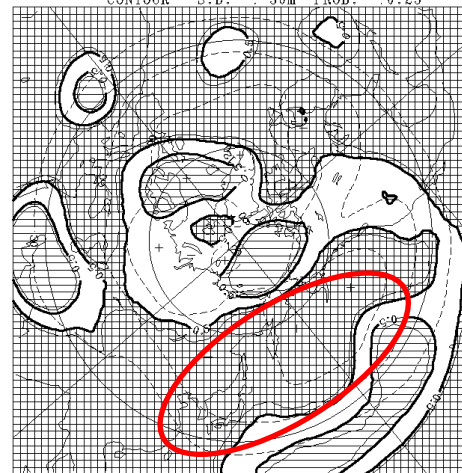
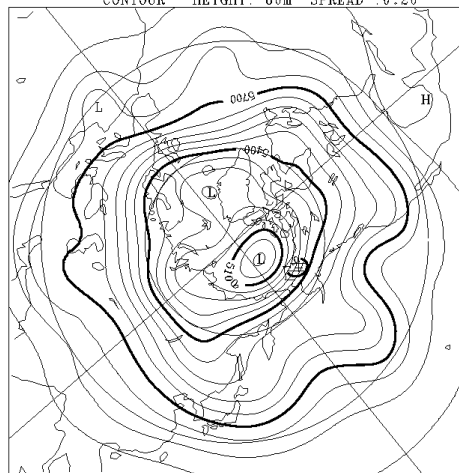
500hPa高度



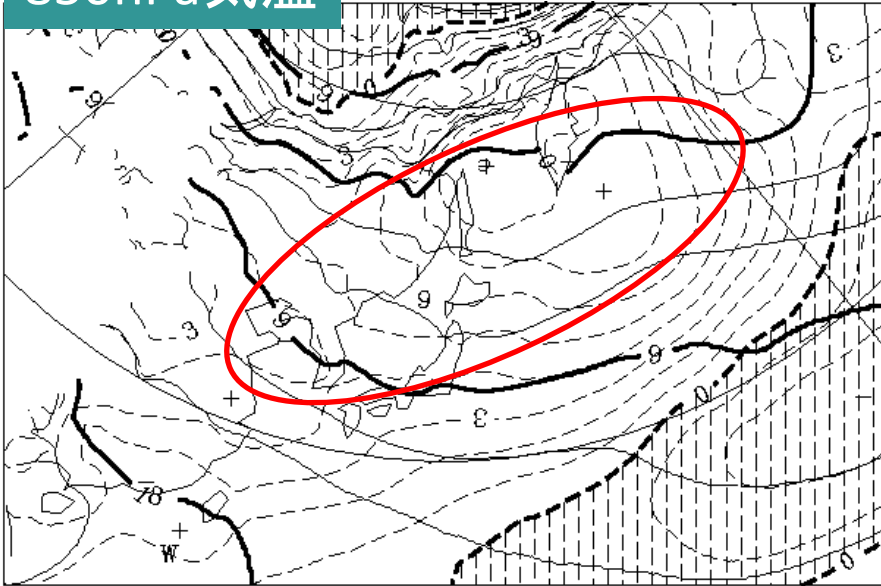
北半球規模で、極域で負偏差、中緯度帯で正偏差。日本付近は東西に広く正偏差で、正の高偏差確率の大きい領域に覆われる。特に日本のはるか東の高度が高い。

500hPa SPREAD AND HEIGHT
CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

PROB. OF H.ANOMALY AND S.D.
CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

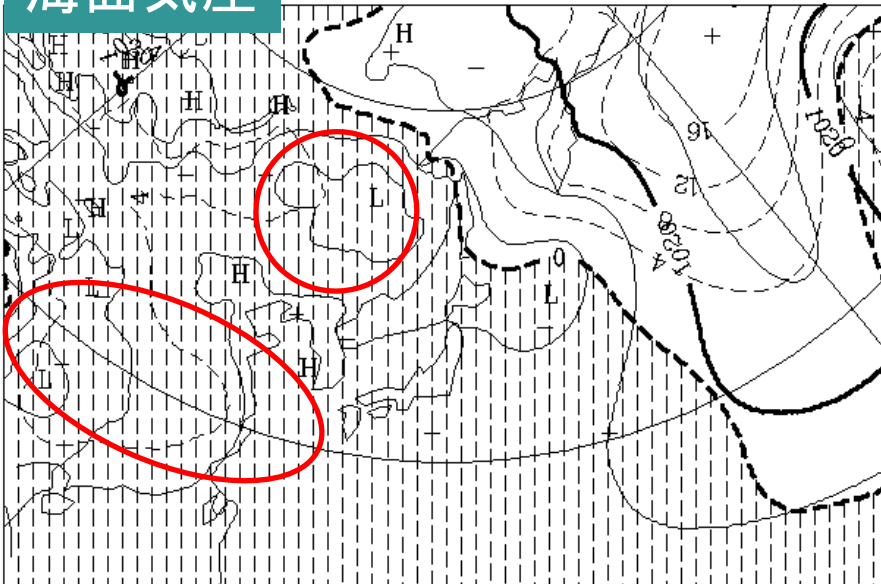


850hPa気温



日本付近は広く、強い正偏差に覆われる。正偏差の中心は北日本。

海面気圧



日本付近では等圧線の傾きが小さく、移動性高・低気圧が周期的に通過することを示唆。華中には、負偏差域が東西に伸び、前線帯の形成を示唆。

想定される天候

- ・ 北日本では、天気は数日の周期で変わりますが、低気圧や気圧の谷の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本でかなりの高温。

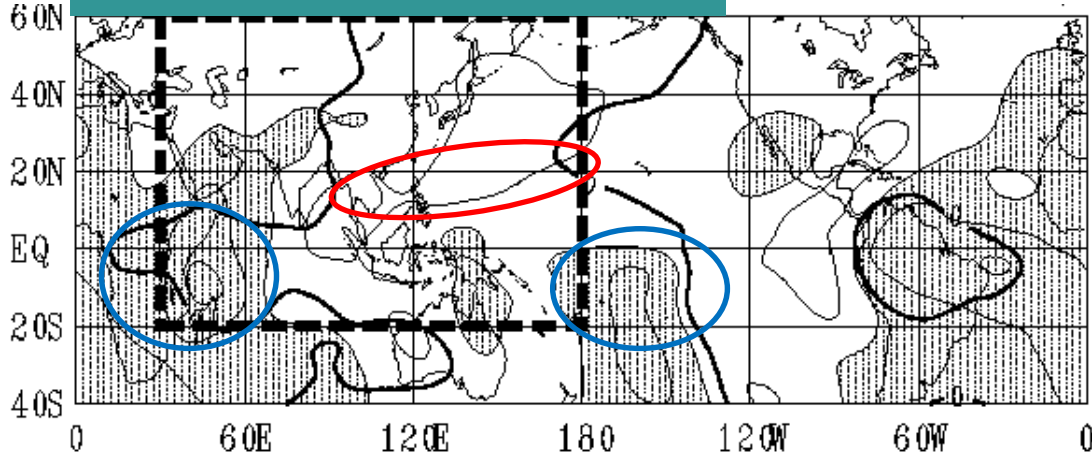
暖かい空気が流れ込みやすいため、沖縄・奄美でかなりの高温。

<天候>

北日本では、期間後半に低気圧や気圧の谷の影響を受けやすく、並雨で寡照傾向を見込む。東日本では、やや高気圧に覆われやすくやや少雨多照、西日本日本海側ではやや少雨並照、西日本太平洋側では平年と同様。

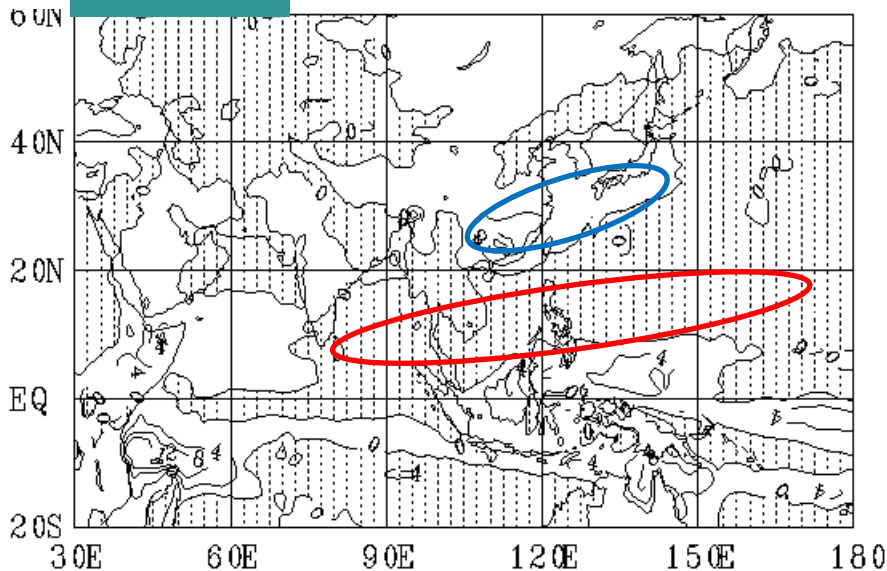
沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすく、並雨寡照傾向を見込む。

200hPa速度ポテンシャル



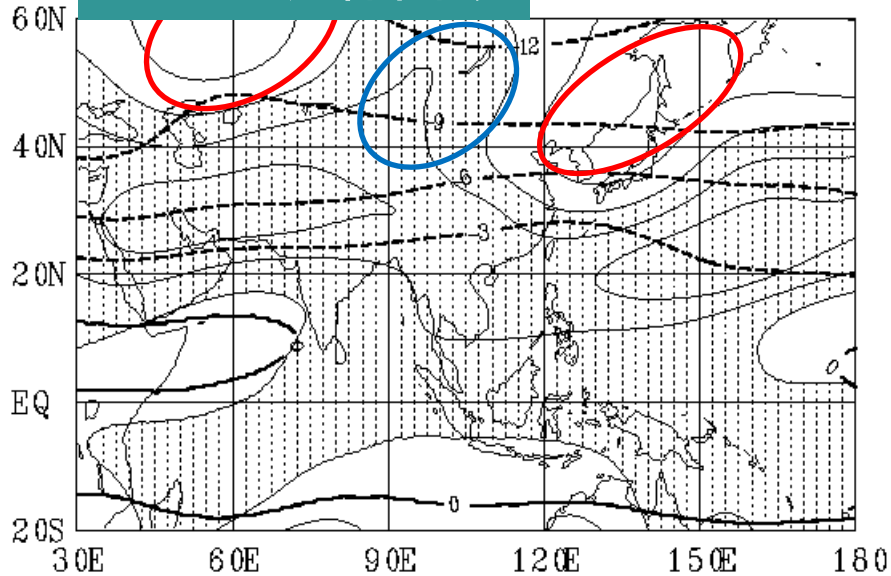
アフリカからインド洋西部、中部太平洋付近で上層発散偏差。ベンガル湾からフィリピンの東にかけて上層収束偏差。海面水温偏差の影響を示唆。

降水量



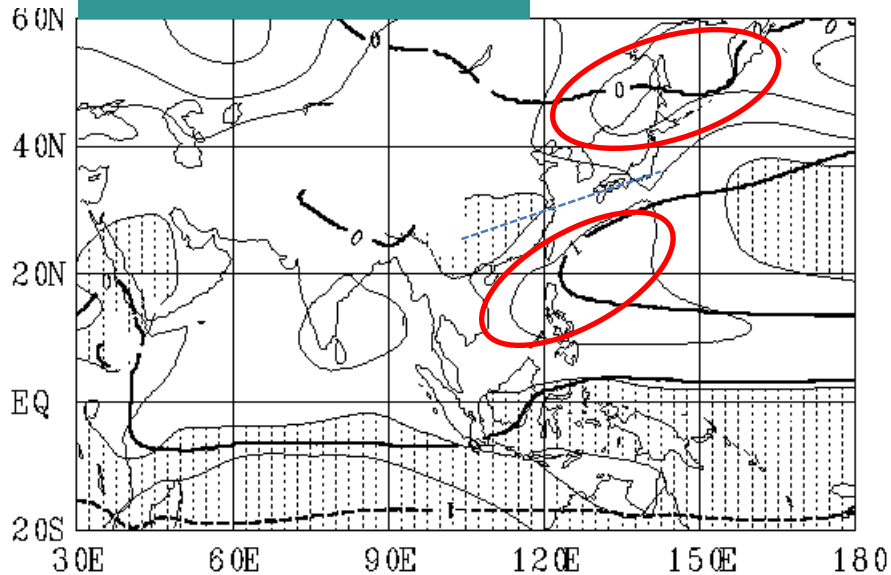
ベンガル湾からフィリピンの東にかけて少雨偏差。華南・華中から東日本にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



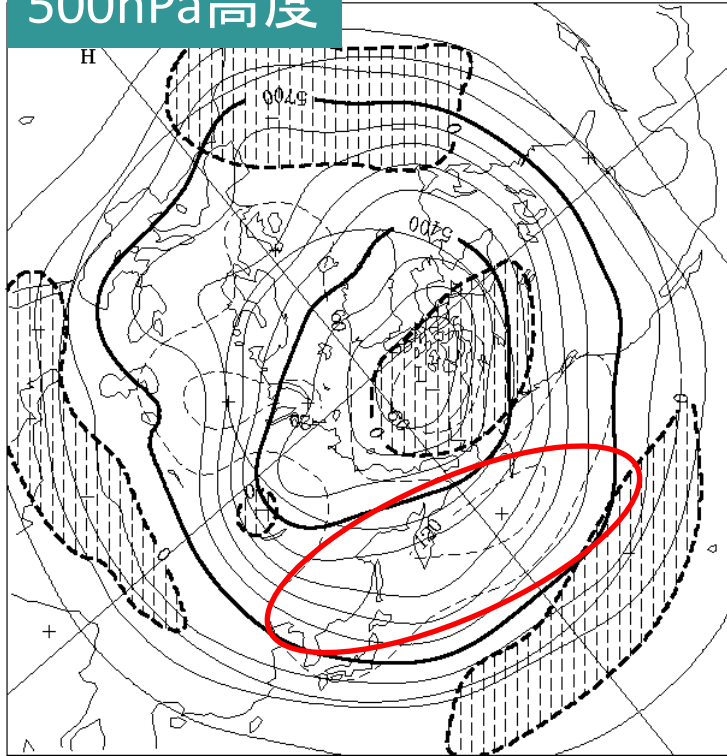
寒帯前線ジェット気流に沿った波列パターンが見られ、日本海からオホーツク海にかけて高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



南シナ海からフィリピンの東にかけてと日本海からカムチャツカ半島にかけて高気圧性循環偏差。その間の東シナ海から東日本にかけて前線帯が形成される。

500hPa高度



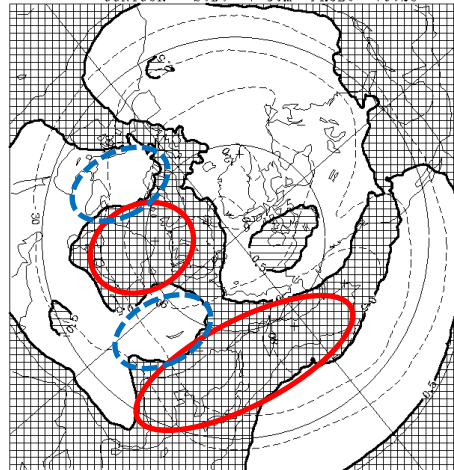
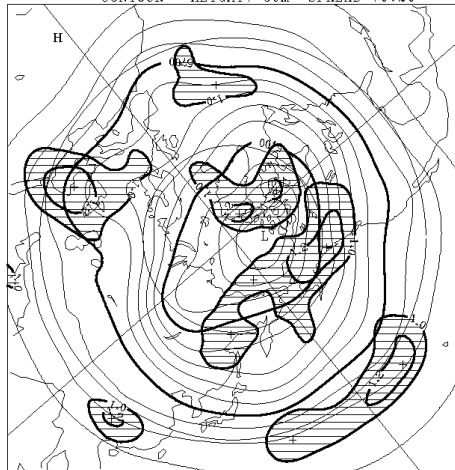
日本付近は華北から日付変更線の東にかけての帯状の強い正偏差域に覆われる。加えて、正の高偏差確率が大きな領域には、寒帯前線ジェット気流に沿った波列状のパターンが見られ、その一環としても、日本海で正偏差が強い。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

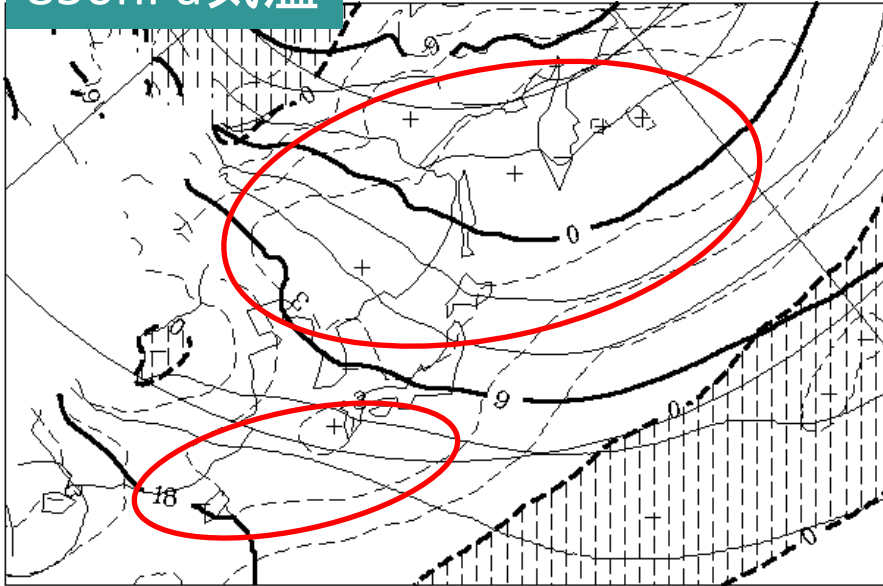
PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

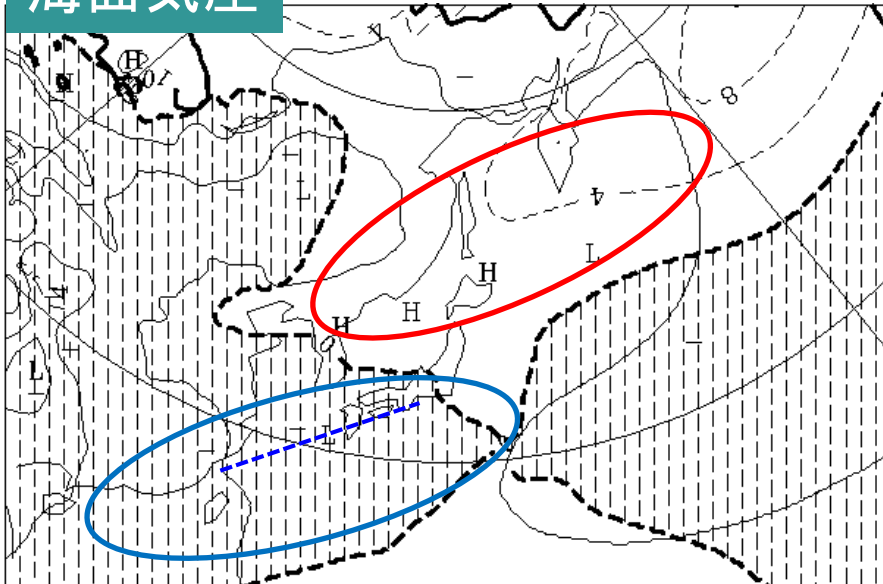


850hPa気温



日本付近は東西に広がる高温偏差。高温偏差の中心は日本の北と東シナ海。

海面気圧



日本海からカムチャツカ半島付近にかけて正偏差の一方、華中から西日本にかけて負偏差で、西日本を中心に前線や低気圧の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 北日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や低気圧の影響を受けやすく、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

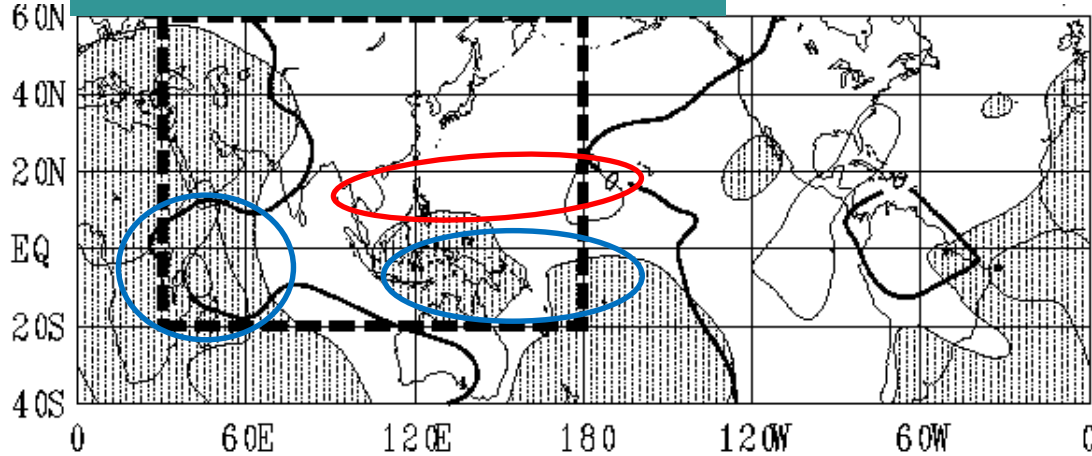
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高温で、かなり高くなる可能性がある。

<天候>

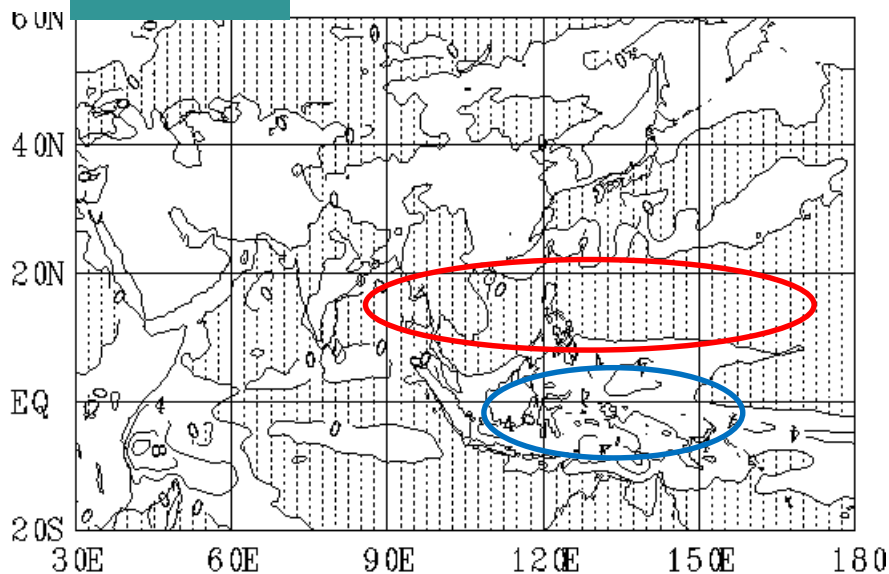
北日本は、湿った空気の影響を受けやすく、やや寡照だが低気圧の影響が弱くやや少雨。低気圧や前線の影響を受けやすい東日本と西日本日本海側で多雨傾向寡照、西日本太平洋側で多雨寡照。沖縄・奄美は、前線や湿った空気の影響を受けやすく、やや多雨やや寡照。

200hPa速度ポテンシャル



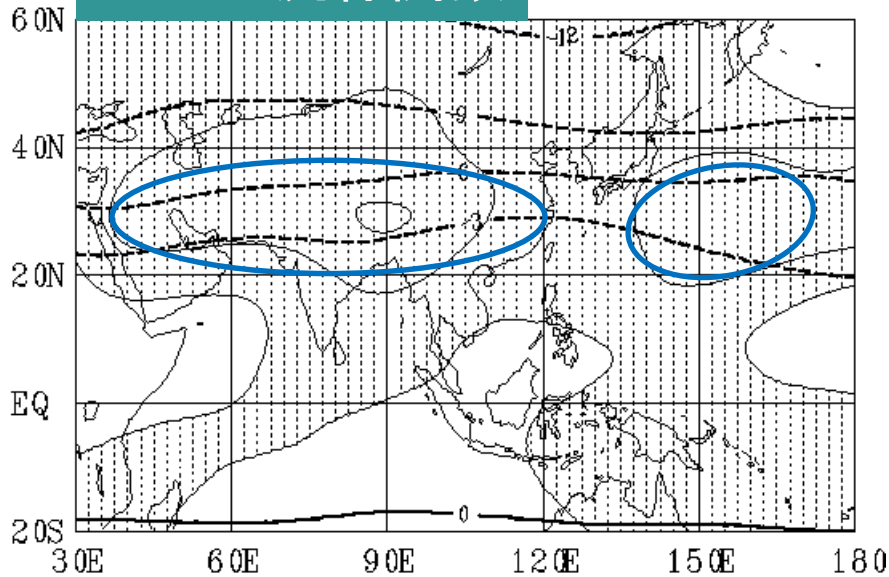
アフリカからインド洋西部、インドネシア付近から中部太平洋にかけて上層発散偏差、ベンガル湾からフィリピンの東にかけ上層収束偏差。

降水量



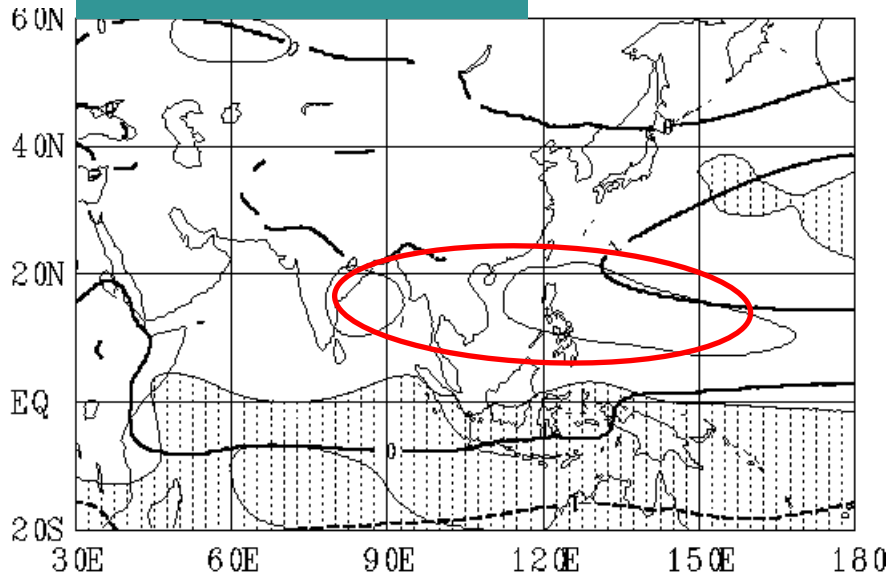
インドネシア付近で多雨偏差。ベンガル湾からフィリピンの東にかけて少雨偏差。日本付近の偏差は小さい。

200hPa流線関数



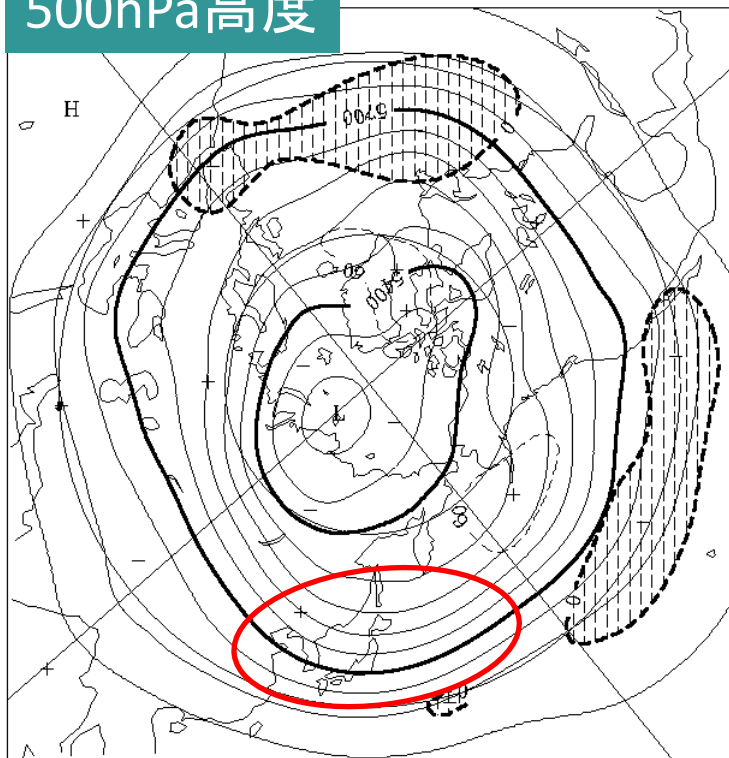
中東から華中にかけてと日本の南から東にかけて低気圧性循環偏差。熱帯の対流活動が赤道寄りで活発なことの影響を示唆。

850hPa流線関数



ベンガル湾からフィリピンの東にかけて高気圧性循環偏差。亜熱帯域の偏差は鉛直傾圧構造で、熱帯対流活動の影響を示唆。

500hPa高度



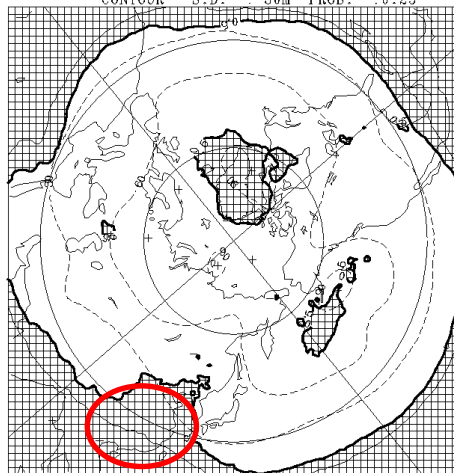
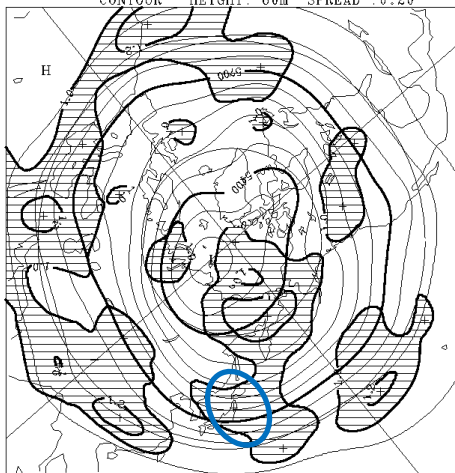
日本付近は広く正偏差。華中から東シナ海にかけて正の高偏差確率が高い領域があり、日本の西側で正偏差が大きい。日本付近にもスプレッドが大きい領域がかかり、予測の不確実性が大きい。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

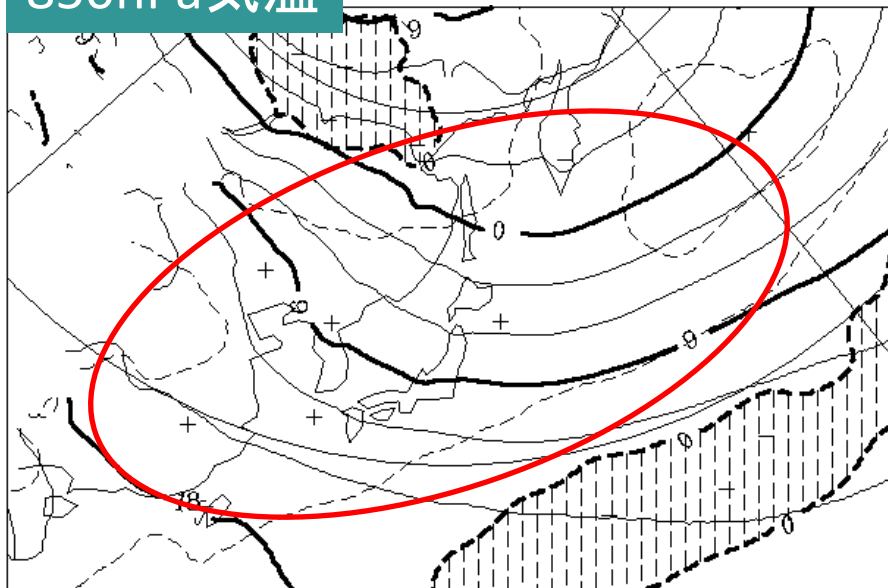
PROB. OF H.ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25



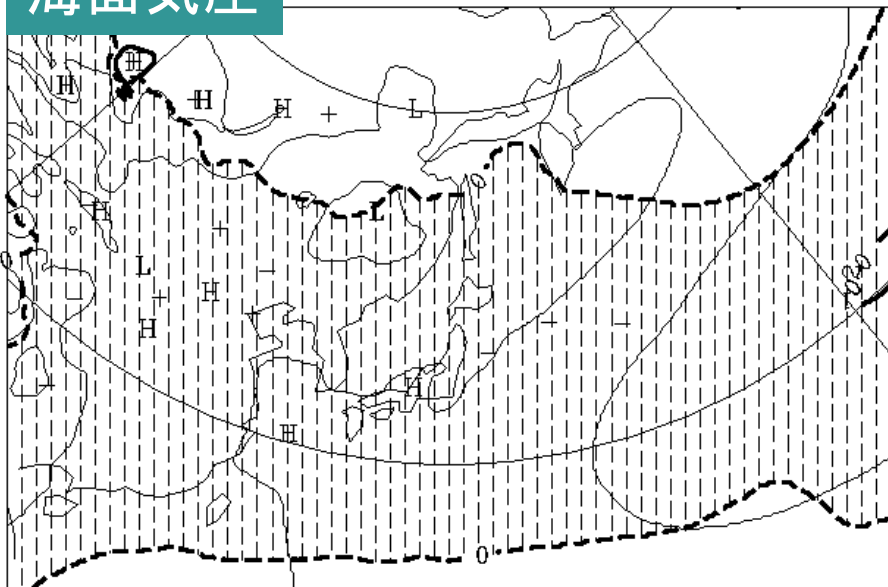
850hPa気温



日本付近は広く高温偏差に覆われる。

日本付近では等圧線の傾きが小さく、移動性高・低気圧が周期的に通過することを示唆。

海面気圧



想定される天候

- ・ 北日本日本海側と沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 北日本太平洋側と東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

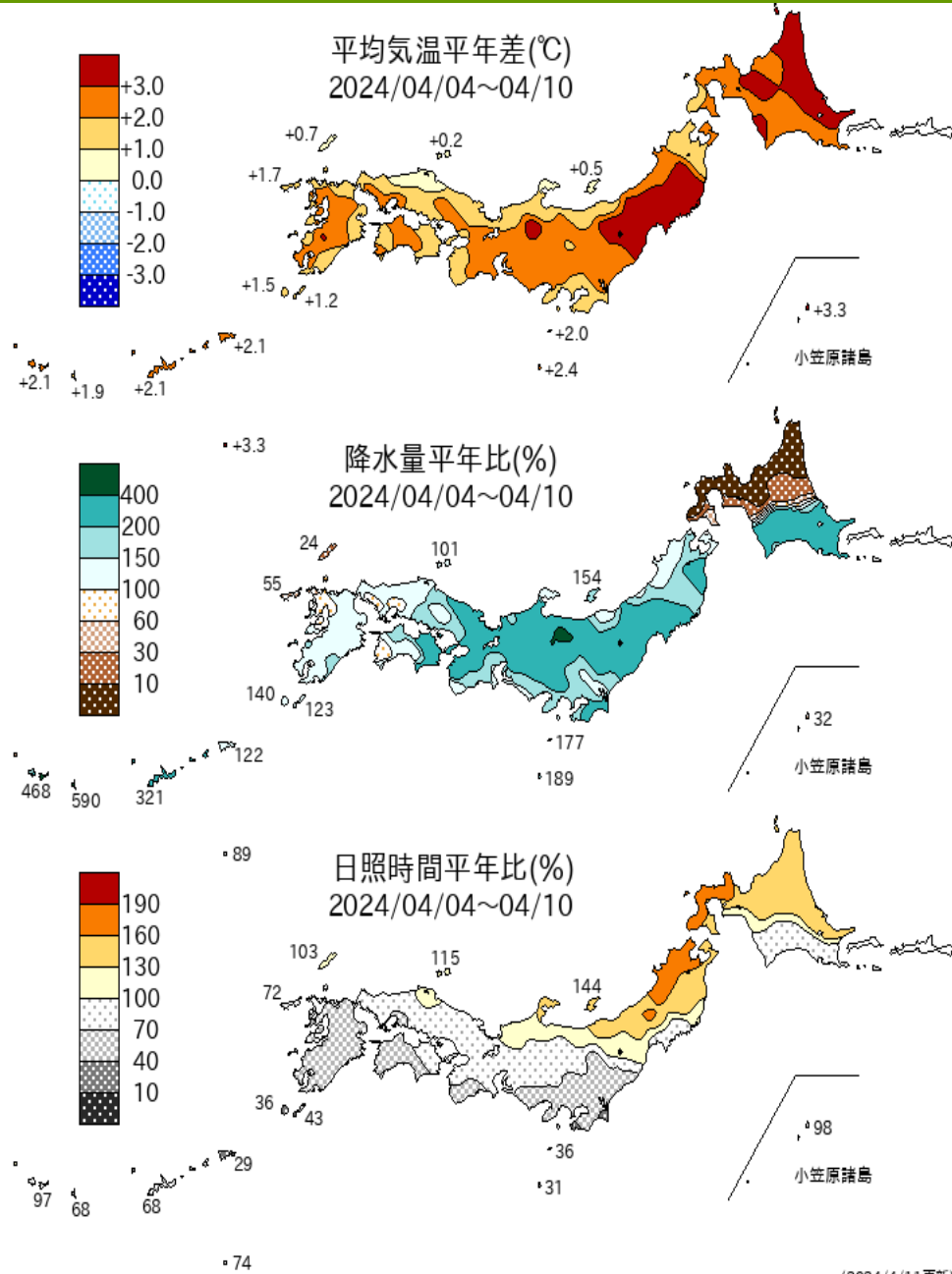
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、全国で高温。

<天候>

全国で並雨並照を見込む。

最近1週間の天候経過



最近1週間(4月4日~4月10日)は、本州の南岸に停滞した前線や低気圧の影響で、東日本太平洋側、西日本と沖縄・奄美では曇りや雨の日が多くなりました。8~9日にかけては前線上の低気圧の影響で全国的に曇りや雨または雪となりました、大雨や荒れた天気になった所がありました。一方、高気圧に覆われやすかった北日本では日本海側を中心に晴れの日が多くなりました。

気温は、暖かい空気に覆われたため全国的に高くなりました。